

コロナ禍で注目 体育で「テニピン」

身体接触が少なく

新型コロナウイルスの感染防止策として体育の授業内容が制限される中、テニスをアレンジした「テニピン」が静かな注目を浴びている。身体接触の心配が少ない上、技術的にも小学生から始め、用具も気軽にそろえられるからだ。6月下旬、活動に取り組み学校を訪ねた。

「何回連続でラリーがでるか、やってみよう」
 東京学芸大学附属小金井小学校。6年1組の子どもたちの歓声が体育館に響いた。

ラリーでウォーミングアップを終えるとゲームが始まる。見た目はテニスだが、利き手にあるのは段ボールでできたラケット。基本的にはダブルスで、卓球と同様に同じチームの選手が交互に打つ。この日は感染症対策としてテニスが例示さ

「何回連続でラリーがでるか、やってみよう」

策として、ラケットを持たない方の手には手袋を着けてプレーした。ある女子児童は「手でコントロールできるのでテニスより簡単にできる」と笑う。

テニピンは、学生時代テニスをしていた今井茂樹教諭が17年前に開発した。2017(平成29)年度に改訂された小学校学習指導要領の解説体例編には、ゲームの一例としてテニスが紹介されている。



テニピンをプレーする子どもたち＝6月25日、東京学芸大学附属小金井小

テニスをアレンジ 小学生から楽しめる

しかし、用具をそろえるのにお金がかかり、ラリーを続けられるようになるためには技術が必要だった。ボールに触られる子とそうでない子の差が付きやすかったという。

それに対しテニピンでは、ネットはキッズテニス用のものを使用するが、コーン標識とバーでも代用が可能。必要なのはスポンジボールくらいだという。

ルール面では、できるだけ多くの子もがボールを打てるよう、4打目まではラリーで5打目からポイントになる。「ボールを打つための体の使い方や戦術などを学べてテニスの入門競技にもなる」と今井教諭。現在、日本テニス協会の協力を受け、普及活動も行っている。

小学校でも実施しやすい「ネット型」のゲームとして関心を集める一方、今年度のコロナ禍対策を進める上で、身体接触が少なく用具の共用も不要な点が注目された。ゲーム・ボール運動の実施を延期する学校が相次ぐ中、今井教諭は「安全性の高いテニピンに取り組みたい」と話す。